

# 耐震化から長寿命化改修、そして複合化へ。文部科学省の方針により あたらしい高機能窓ガラスが求められています。

## いま、学校をとりまく環境は大きく変わろうとしています

かつての学校は、児童数の増加に対応して施設をつくり、効率的な学びの場を子どもたちに提供するものでした。阪神淡路大震災の発生以降は、防災意識の向上、耐震性強化のための改修が始まり、東日本大震災以降、その取り組みが加速しました。

現在、構造部材の耐震化は、平成26年の時点で公立小中学校の96%まで進捗しています。しかし、吊り天井、窓ガラス、照明、スピーカーなど、非構造部材についてはまだ30%程度しか改修されていません。避難所としての機能が期待される体育館は特に、**非構造部材の耐震化**が求められています。

一方、公立小中学校の施設は、建築後25年以上経過した建物が保有面積の約70%を占めるなど、老朽化が深刻化しています。現在では、限られた予算で安全面や機能面の改善を図る施策として、学校施設を建て替えるのではなく、改修して使い続ける**長寿命化改修**が進められています。

さらに平成27年より、国の方針として**小中一貫化教育**や**学校施設と公共施設等との複合化**が推進されています。小中一貫化教育に関しては、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」が正式に策定され、今後各都道府県教育委員会がこれを活用して、地域の実情に応じた活力ある学校づくりが実施されていきます。学校施設と公共施設等との複合化についても検討部会が開催中で、近々手引きの策定が行われるようです。

こうした流れの中、求められる窓ガラスも大きく変わります。**これからの学校に求められる「エコ・安全・安心」に貢献できる高機能窓ガラス。文部科学省の施策に貢献できる、あたらしい窓ガラスが注目されています。**

## 文部科学省による4つの方針

### 非構造部材の耐震化

窓ガラスや吊り天井、照明など非構造部材の耐震化を推進。

### 長寿命化

「学校施設の長寿命化改修の手引き」が策定され本格的に始動。

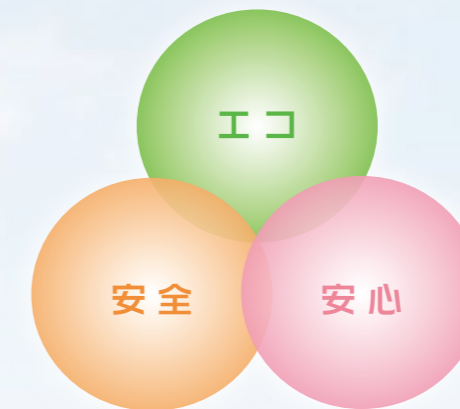
### 小中一貫化

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」策定。

### 複合化

「学校施設と公共施設等との複合化について」の検討部会が開催。

より高度な安全性・防災機能・省エネ性が  
求められている



これからの学校ガラスに求められる3つの要素

## 用語解説

### 学校の長寿命化改修とは

文部科学省が推進する学校施設の「省エネ」+「防災」機能強化を進める施策。学校施設を建て替えるのではなく、長期的な展望に立ち、改修によって安全性の強化と環境負荷の軽減を図ることを目的としています。

### 改築の場合



### 長寿命化改修の場合



工期・人工数が短縮

### 小中一貫教育・学校と公共施設の複合化とは

少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて文部科学省が推進する施策。小中一貫教育及び複合化により、1校の規模が拡大し利用者の層が多岐にわたるため、より高度な安全性・防災機能・省エネ性が求められます。

